130 KANSAI UNIVERSITY
2014.07 Vol.434
関西大学通信

KANDAI STYLE

特集

夏休みに頑張った 関大生 大集合!

みんなで一緒に考えよう。【関大誌上教室】
障がい者支援って何ですか?

【VIVA!学び場】文学部
「教育文化専修ゼミ3」
山ノ内裕子 准教授

【働く関大人】外資系ホテル業界／ゲストリレーションズ
インターコンチネンタルホテル大阪 前野愛子さん

【なるほど・ザ・関大!】
行ってみよう!見てみよう!
高槻キャンパス・高槻ミューズキャンパス・堺キャンパス
「名所と名物」

【今月のシンクさんアクトくん 関大生の友の輪】
システム理工学部4年次生 井上哲貴さん

夏休みに頑張った関大生 大集合!

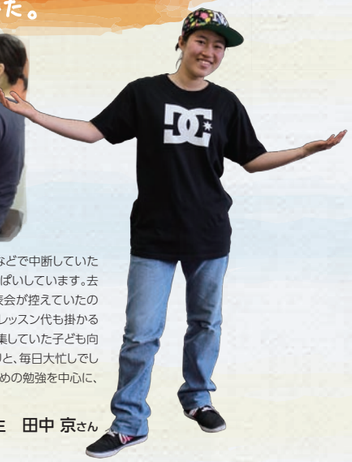
目前に迫った約２カ月間の夏休み。どのように過ごそうか、今から予定を立てて楽しみにしている人も、そうでない人も、せっかくの長い休暇をぜひとも有意義に過ごしてもらいたい。という訳で、夏休みを利用して何かを極めた関大生たちに話を聞いてみました。この夏のヒントにしてみてはいかがでしょう。

一人旅でヨーロッパ4カ国を巡りました。

昨年の夏休み、国際部の留学生受入ボランティアの活動を通じて知り合った留学生との再会と、授業で学んだヨーロッパの文化を自分の目で見ることを目的に、約1カ月間ヨーロッパへの一人旅に行ってきました。フィンランド、フランス、ドイツ、ベルギーを訪れ、7人の友人と再会でき、ドイツでは人生初のヒッチハイクにも挑戦し、車に乗せていただいた老夫婦のお宅で、数日間のホームステイも経験しました。いくつかの国を訪れ、日本では決して想像も体験もできないヨーロッパ独特の文化や歴史を感じることができました。

文学部4年次生　梶井 健吾さん

ダンスやエレクトーン、やりたいことを目いっぱい頑張りました。



大学生になってから、高校の時に部活動や受験勉強などで中断していたダンスやエレクトーンなど、やりたかったことを目いっぱいしています。去年の夏休みは、秋にエレクトーンとダンス、両方の発表会が控えていたので、夏休み中はその2つのレッスンや自主練習、また、レッスン代も掛かるのでその費用のためのアルバイトもしたり、学部で募集していた子ども向けのダンスや体操教室のボランティアにも参加したりと、毎日大忙しでした。今年の夏休みは、健康運動指導士の資格取得のための勉強を中心に、ダンスやエレクトーンもさらに頑張りたいと思います。

人間健康学部3年次生　田中 京さん

公認会計士試験に合格しました。

私は商業高校の出身で高校時代から簿記の勉強をしており、大学入学後は、会計の最高峰といわれる公認会計士試験を受験しようと思いました。まずはエクステンション・リードセンターの公認会計士入門講座を受講し、講座終了後には提携先の専門学校に編入して学習を進めました。その中でも、去年の8月末に行われた二次試験（論文式試験）前は、朝は6時から夜は眠たくなるまで、間に休憩も挟みながらですが、ほぼ丸一日、自宅でみっちり勉強しました。毎日の反復の勉強でつらいときもありましたが、日々の努力が実り、見事試験に合格することができました。

商学部4年次生　安川 圭介さん

ショートムービーの作成に取り組みました。

映像作成の準登録団体「SJMcrew」に所属しており、5～10分程度のドラマ仕立てのショートムービーや音楽のプロモーションビデオを作成しています。昨年の夏休みには、11月末に開催された学部の野外イベント「Sojo Out Stage」で上映する2本のショートムービーの作成に取り組みました。ムービーの評判は良く、作品を見て団体に参加してくれた学生もおり、人に何かを伝えるための力が身に付いたと思います。夏休みは、自分がやりたいことに挑戦する気持ちを持って過ごすことが大切だと思います。今しかできないことに全力で取り組んでみましょう。

総合情報学部3年次生　灘本 真希さん

堺市の社会福祉協議会に、相談援助実習に行きました。

昨年の夏休みは、堺市の社会福祉協議会に相談援助実習に行きました。地域福祉に興味があり、社会福祉士として働きたいと考えています。実習中は職員の方が現場に出るのに同行して相談に乗る様子を勉強したり、地域会館で高齢者の方々が体操やレクリエーションをする催しのお手伝いをするなど、地域でのつながりづくりの現場で学ぶことで、知見が広まったと思います。今年の夏休みは、社会福祉士の試験の勉強に励み、また、主将をしている体育会自転車部のサイクルサッカーで世界選手権への出場を目指して、頑張りたいと思います。

人間健康学部4年次生　杉谷 嘉紀さん

「チタンの水素脆化機構解明」の研究に取り組んでいます。

4年次生の時から春名匠先生の研究室で、水の中で使われているチタンに水素が侵入することで割れてしまう、という現象のメカニズムを解明するため、実験によってデータを収集し、考察を行っています。全く予測していないデータが出たり、実験装置の不具合でデータが取れなかったりと大変なことも多いですが、自分が考えていた通りのデータが出て、1歩前進した、と感じるときにやりがいを感じます。昨年は9月にある学会に向けてのプレゼンの準備などで忙しい夏休みを送りました。今年の夏休みは、9月の学会の準備に加え、修士論文のための実験データ収集などにも力を入れたいと思います。

理工学研究科M2生　安居 尚志さん

東北の被災地でボランティア活動を行いました。

手に持っているのはスマートフォンの携帯充電器。
ボランティア活動に行く際の必需品だそうです。

関西のさまざまな大学生が所属する復興支援団体「Investor（インベスター）」に所属しており、定期的に計画する東北へのボランティアバスツアーをSNSや口コミで参加者を募集し、東北に関西の学生の元気を届けています。昨年の夏休みには約40人で、宮城県石巻と松島の仮設住宅を訪れ、お年寄りや子どもたちとの交流を行いました。被災地の方から「来てくれてありがとう」などの言葉をかけていただくのもうれしいですが、ツアーに参加した学生がボランティアや防災に興味を持ち、個人的にもボランティア活動を継続してくれれば、本当にうれしく思います。

社会安全学部2年次生　弘田 光聖さん

イギリスへのバックパッカーの旅に行きました。

昨年の夏休み、「何か挑戦してみたい」と思い、10日間、バックパッカーとしてイギリス各地を一人旅しました。いずれは留学を考えているので、自分の語学力を確かめるための機会になりました。現地では毎日の宿探しに苦労しましたが、世界各国からバックパッカーとして訪れた人々が集まるホテルに宿泊したときに、20人ほどの多国籍の人たちと食事に出掛けたことがとても印象に残っており、この旅を通して、どんな人であっても臆せずにコミュニケーションが取れるようになったと思います。皆さんもまずは友達同士でもいいので、海外に出てみてはいかがでしょうか。

経済学部2年次生　山下 航典さん

体育会サッカー部約160人全員でサバイバル合宿に行きました。

1・2年次の夏休みに、3泊4日で三重県にサバイバル合宿に行き、民家に訪問しての手伝い、海岸清掃、荒れ地の開拓などを行いました。財布と携帯電話を預けて、食事は自炊、風呂もなくテントで寝ました。普段何不自由なく暮らしていることに改めて感謝の気持ちが芽生え、部の結束力がさらに強くなりました。1日中泥だらけになって雑草を刈った場所が、後で田んぼになったと連絡をもらった時はうれしかったです。今年の夏休みはサッカーに全力で打ち込み、8月末に企画している「24時間サッカー」で、さまざまな国の人とサッカーを通じて親睦し合えればいいと思います。

社会学部4年次生　宮園 貴大さん

ダンスサークル連盟の代表として、イベントを主催するための準備に奔走しました。

関大のダンスサークル「SOUL BEAT CREW」に所属していますが、2年次の終わりから、22大学が所属する「京阪神ダンスサークル連盟SYMBOL」の活動に従事し、3年次生からは大阪代表になりました。夏休みは、「バトル」の企画2つと12月に行われる「ショーケースイベント」の開催に向けて、各大学代表の約50人のスタッフと共に、会議や打ち合わせ、交渉に行ったりと奔走しました。結果700人も観客が集まり、踊っているダンサーや観客の笑顔に感動しました。一緒に頑張ったスタッフはかけがえのない一生の友達になりました。

商学部4年次生　森 夕里奈さん

みんなで一緒に考えよう。

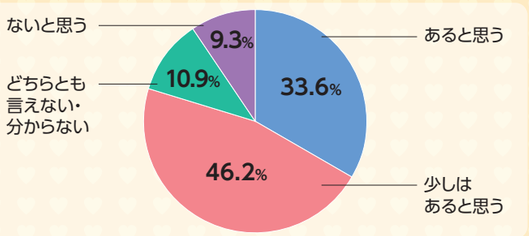
関大誌上教室

障がい者支援って何ですか？

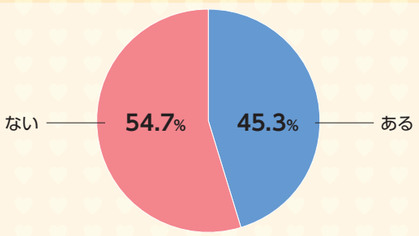
「バリアフリー」「共生社会」。誰もが触れたことのある言葉ではないでしょうか。ただ、言葉は知っていても、本当の意味で深く理解できている人はどれくらいいるのでしょう。学生支援スタッフが障がいのある学生のサポートをする。そんなシステムを有する本学だからこそ実際に関大生がどのような意識を持っているのか、調査しました。

【アンケート期間：4月25日～5月21日
対象：関大生　回答者数：247人（男子112人　女子135人）】

Q1.あなたの身の周りで、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか？（一つ選択）



Q2.日常生活で、障がいを持った人の支援（お手伝い）をしたことがありますか？（一つ選択）



Q.その理由を教えてください。

【あると思う・少しはあると思う】と回答した人の意見

学部・学年	性別	
法1	男	妹が知的障がい者で、学校に行きたくないと言ったことがあるから。
法3	男	公共施設において、車いすの人などに対する配慮が完璧ではないから。
文3	女	私の飼っている犬は生まれつき右足がありません。散歩をしていると、よく「かわいそうだね」と言われます。犬は生まれつきのものなので気にしている様子はありません。なのになぜ何も知らない人にかわいそうと言われるのか私には分かりません。人は口には出さなくても、障がい者に対しかわいそうという偏見を持っているのだと思うようになりました。
外1	女	障がい者と呼ばれている時点で差別だと考える。就職や進学も限られている。

【どちらとも言えない・分からない】と回答した人の意見

学部・学年	性別	
商2	男	障がいのある人が身近にいない。
社4	女	現在は身の周りに障がいを抱えた人はいないが、中学生のときに発達障がいのある友人がクラスにいたときは、みんな他の生徒と何ら変わりなく接し、仲良くしていたため。

【ないと思う】と回答した人の意見

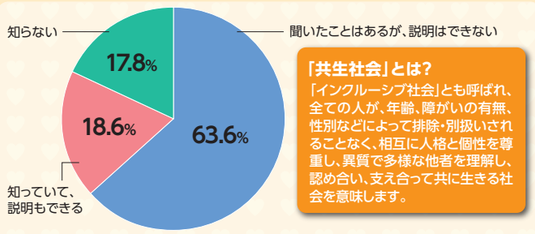
学部・学年	性別	
文1	男	私の身の周りにはいわゆる障がい者はいないし、いた時期もあったが、周りの人がしっかり配慮できていて、なるべく障がいを意識せずに済むような環境ができていた。
社1	女	そのような場面を見たことがない。
情1	男	（少なくとも自分の身の周りでは）差別・偏見などはなかったから。
化生1	男	大学生ともなると、差別するよりも助けようとする心が先に出ると思うから。

Q.どのような支援（お手伝い）を行いましたか？

【ある】と回答した人の意見

学部・学年	性別	
商1	女	向こうから点字ブロックの上を歩いてくる視覚障がい者の方がいたので、道をふさいでいた自転車を先にどかしておきました。
社1	女	支援学校の文化祭の準備への参加。
社1	女	地元のボランティアで、障がいを持った方と料理をしたり歌を歌ったりして遊んでいます。
社4	男	小中学校時代、同級生に知的障がいを持つ友人がいた。授業や部活動で9年間を共にし、登下校に付き添ったこともある。特別扱いするのではなく、小さな配慮を続けたことが、少しでも彼へのお手伝いになっていたらうれしい。
情3	女	小学校のころ、クラスに足に障がいを持った女の子が転入してきた。その女の子と次第に仲良くなり、移動教室や遠足、体育の時間など補助や松葉づえを手渡したり、車いすを押したりした。
安全2	男	アルバイトで雑踏警備をした際に、瞬時に聴覚障がい者の方と判断できたので筆談対応を行った。

Q3.「共生社会」という言葉を知っていますか？（一つ選択）



「共生社会」とは？
「インクルーシブ社会」とも呼ばれ、全ての人が、年齢、障がいの有無、性別などによって排除・別扱いされることなく、相互に人格と個性を尊重し、異質で多様な他者を理解し、認め合い、支え合って共に生きる社会を意味します。

障がいのある学生に対する修学支援窓口を知っていますか？

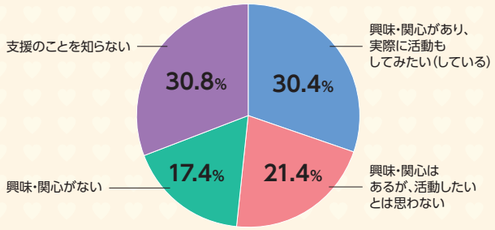
本学では「学生相談・支援センター」が窓口になり、障がいのある学生の修学が、他の学生と同等の条件になるように、障がいの種類や程度に応じて、正課授業や試験を中心に支援を行っています。

学生相談・支援センター入口

学生相談・支援センター事務室の様子

学生支援スタッフ作業の様子

Q4.学生相談・支援センターが募集する「学生支援スタッフ」に興味・関心がありますか？（一つ選択）



Q.「興味・関心はあるが、活動したいとは思わない」理由を教えてください。また、どのような条件があれば活動しようと思いますか？

学部・学年	性別	
文1	男	勇気がない。
文3	女	手話講座など、単位を得ることができるのなら参加したい。
情1	男	自分のことで精いっぱいで手話や点字を覚えることに手が回らなさそうだから。
情4	男	専門的な知識がないと参加しにくいイメージがある。
環都3	女	パソコンテイク、ノートテイク、文字起こしと言われても実際はどのように行うのかが分からず、説明を読んで難しそうだと思ったから。学生支援スタッフに応募する前に、1時間程度の説明会などがあれば参加したい。

学生相談・支援センターで支援をしている・制度を利用している学生に、お話を聞きました。

実際の授業により近づけるための工夫をしています

社会学部4年次生
柏原 清奈さん

特別支援学校の先生になるという将来の目標のため、学生支援スタッフの活動はとても勉強になると思い、活動を始めました。
スタッフの主な活動内容は、パソコンテイク、ノートテイク、点訳、映像への字幕付け、学内各所への点字シールの貼り付けやバリアフリーマップの作成などで、私が普段行っているパソコンテイクは、スタッフが3人1組で、2人が授業内容を要約して打ち込み、1人が打ち間違いのチェックを行います。打ち込む内容には、授業中に先生が話した雑談も含み、より実際の授業に近い表現をするよう心掛けています。また、パソコンテイクに行く授業内容が自分にとって難しい場合、先生から次回の授業のレジュメをもらうなど、事前に予習を行う工夫もしています。
障がいのある学生への支援は、どうしても身構えてしまう学生が多いかもしれませんが、もっと気軽に参加してほしいと思います。まずは研修に参加してみると、不安もなくなり、スタッフ同士の仲間も増えて楽しい活動になりますよ。

授業が「楽しい」と思えたことが、とてもうれしいです

文学部2年次生
三村 杏子さん

私は聴覚に障がいがあり、学生相談・支援センターでの支援制度を利用しています。高校生のときは、先生によって事前にレジュメをもらったり、授業内容を教えていただくなど、多少の支援は受けていました。関西大学への入学を決めた高校3年生のときに、「大学での授業はどのように受ければいいんだろう？」という不安はありましたが、担任の先生から障がいのある学生に対する修学支援窓口や学生支援スタッフの存在を教えてもらいました。
新学期が始まった最初の1週間は、どの授業に支援が必要なのかを把握するため、一人で授業を受けるのですが、やはり授業内容を全て理解できずに、授業が楽しいと思いませんでした。しかし、支援に入っていただくと、授業内容を理解できるだけでなく、授業中の先生のちょっとしたジョークなどにも笑うことができ、授業が楽しいと思えるようになったのが、自分自身でもとてもうれしいです。受ける授業によって支援の要望に応えてくれたり、多いときには、30枚ほどの用紙を使ってノートテイクをしてくれるスタッフの方には感謝しています。

ノートテイクの様子

OPINION OF PROFESSOR
社会学部　加納 恵子教授

「障がいを理由とする差別・偏見がある」と答えた関大生は約80%です。手元にある「障害者に関する世論調査」（平成24年）の20歳代の約97%と比べるとずいぶん低め。「うーん、ノーテンキ…」と思いきや、理由を見ると「仲良くしていた」「配慮できていた」など、これまでよい関係を経験してきた人が多く、「共生社会」の認知度も高いことから、回答者たちは、相対的によい環境で共生教育を受けてこられたのかもしれません。

一方、「支援（お手伝い）の経験あり」は約45%と、世論調査20歳代の約74%と比べてかなり低い、どうやら知識はあっても行動が伴わないようです。その背景として、小中学時代はそれなりに共生できていたのに高大と進むにつれ「身近にいなくなった」との意見が少なくないことが気になります。関大に限らず、高等教育での共生の難しさが読み取れます。

しかしながら、頼もしいことにQ4の「学生支援スタッフ」に半数以上は「関心あり」と答え、約3割は「活動をしたい」と意欲を示しています。昨年発足した学生相談・支援センターが水面下で地道に取り組んできた「インクルーシブ・キャンパス・キャンペーン」がじわじわと効いてきたのではないでしょうか。

次号のテーマは…「電話・メール・手紙の“マナー”を考える」

皆さんは、先生や先輩、社会人と連絡を取る際に、電話やメール、手紙における言葉遣いや文章構成など、さまざまな「マナー」を意識できているでしょうか。次号（10月号）では、関大生の電話・メール・手紙におけるマナーに対する意識や、近年増加しているさまざまな連絡手段の使い分けなどについて調査します。

7月号「関大誌上教室」アンケート プレゼント当選者の発表について

今号の「関大誌上教室」アンケート「障がい者支援について知っていますか？」にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。プレゼントの発表は、当選者のみ、インフォメーションシステム「個人伝言」で連絡します（7月1日に通知予定）。
「関大誌上教室」のアンケートは次号以降も行う予定ですので、ご協力をよろしくお願いします。

働く関人 kandaijin

外資系ホテル業界／
ゲストリレーションズ

インターコンチネンタル
ホテル大阪

前野愛子さん

大阪教育大学附属高等学校出身
2013年外国語学部卒業

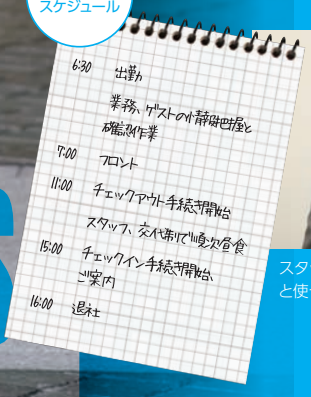
お客さまに喜んでいただけた時が、何ものにも代え難い瞬間です。

エレベーターから降りると眼下に広がる大阪の街。そんな見晴しのいいフロアでゲストを迎えるのが、外国語学部一期生、前野愛子さんです。インターコンチネンタルホテル大阪の20階で、フロントでのチェックイン・チェックアウトの手続きをはじめ、VIPの接客、ホテルの施設や観光案内など、ゲストに快適な空間と時間を提供するゲストリレーションズ業務に従事しています。

前野さんは「じっと机に向かう仕事より語学を生かし、たくさんの人たちとコミュニケーションを取る仕事に就きたい」との思いから、外資系で海外からのゲストも多いインターコンチネンタルホテル大阪に入社しました。今の部署の前に配属されていたクラブラウンジではゲストだけでなく、スタッフ同士のコミュニケーションも重要で、チームワークで「快適」を作り出す達成感を感じたそうです。目標は「格式の高いラグジュアリーホテルにふさわしい最高のサービス」。決して一律ではないお客さまの要望に的確に応えるため、「日々勉強です。先輩方の応対も参考にして、お客さまが心から喜んでくださるように心掛けています」と語ります。

ホテルに就職を希望する関大生に伝えたいことは、「学生時代はできるだけいろいろな経験をしてほしい。私自身は留学が一番の思い出ですが、旅行も遊びも読書も、したいことは何でも積極的にしてください。経験値を上げることでお客さまとの話題も豊富になります。自分で経験したことが後々生きてくると思います」と素敵な笑顔で話してくれました。

ある1日のスケジュール



スタッフ間のコミュニケーションツール、トランシーバーと入社以来ずっと使っている年季の入ったメモとペン。

GUEST RELATIONS

\VIVA!/
学び場

文学部

「教育文化専修ゼミ3」

山ノ内裕子 准教授

「教育人類学」を柱に、広い意味での教育を学ぶ

さまざまな視点から教育、文化を考えてみる。物事を立場や角度を変えて眺めることから、多様性を尊重する人間の育成を目指します。

山ノ内裕子准教授が提示した20冊余りの本の中から学生たちが自身で吟味し、テキストを選ぶことがこのゼミの始まりでした。文化人類学とは、調査対象である社会や集団の中に入り、共に行動する「参与観察」を通して、人々の行動や思考、慣習について研究する学問です。この授業では、文化人類学の中でも、特に教育を研究対象とする「教育人類学」を学びます。学生たちはテキストやフィールドワークの中で「異文化」と出会い、自らの価値観を相対化し、複眼的なものの見方を身に付けていきます。

着任当時は学生に対して細かい指導をしていたという山ノ内准教授ですが、現在はできるだけ学生の自主性に任せるという形をとっているそうです。前述のゼミで使うテキスト選びも、フィールドワークを兼ねた合宿の内容も、学生が選択権を持っているとのこと。「教員からの働き掛けで動くのではなく、自分で気付き、考え、行動することが大事」だと先生は言います。そういう学習方法を通じ、相手の立場に立って物事を考えられるようになると、自分たちの文化や受けてきた教育を振り返り、異文化や他者を知ることができる。そして今まで「当然」のこととして受け止めていた文化や教育観を自分なりに解釈し、正しい批判をするまでに成長するそうです。あくまで学生の自主性を重んじ、自由に発言、発表できるこのゼミ。内容はもちろんのこと、先生の人柄やその考え方に魅力を感じて受講する学生が多いというのにもうなずけます。

在日外国人の教育、異文化の理解、フィールドワークでの体験を伴った学び。このゼミが目指すのは広い意味での教育、そして幅広い分野で人類学を学ぶ、ということなのです。

田渕ふづきさん（3年次生）

視力障がいのある私の夢は、普通校の英語教諭。人間はどうしても自分と違う部分を持つ人を遠ざけてしまいがちなので、身近に障がい者がいること自体が、きっと一つの教育になるのでは、と思っているからです。

高嶋田晃平さん（3年次生）

山ノ内先生の持つ、学生との程よい距離感とバランスが大好き。何よりも先生の魅力が、ゼミを選んだ一番の理由でした。予習が必要なこのゼミは大変ですが、「異文化理解」は新しいことをしている実感があり新鮮です。

文学部 山ノ内裕子 准教授

学生には、多くの人と出会い、さまざまな価値観やものの見方を学ぶことで、多様性を尊重できる人になってほしい。だからこそ、ゼミにはどんな人でも来てほしい、と思います。いろんな個性の人が集まって、意見を交わすことで、いろんな考え方や物の見方を知った方が楽しいし、勉強になるはずですから。

高槻キャンパス・高槻ミューズキャンパス・堺キャンパス

「名所 と 名物」

行ってみよう!
見てみよう!

広大な関西大学キャンパス内の「名所」「名物」。
4月号から引き続き2回目の今回は高槻キャンパス、高槻ミューズキャンパス、堺キャンパスの「名所」「名物」をご紹介します。

高槻キャンパス

和もう!

写真は昨年のもの。

【緑に覆われた、食堂の窓】
夏の省エネ対策として、昨年から厚生棟1階食堂に「緑のカーテン」を導入することになりました。
窓を「ゴーヤ」で覆うことで、緑化という景観性を向上しつつ建物への直射日光を遮り、エアコンの消費を抑えることが目的。
食堂で食事をとる学生からも「涼しげで気持ちがいいです」と好評です。

名物

名所

見てみよう!

【総合情報学部K棟　ギャラリー】
演習・実習において最新鋭のスタジオ設備やメディア機器を駆使して制作した映像作品やデジタルコンテンツを、大型スクリーンに投影しています。
また、学生の制作物を展示するスペースも確保され、総合情報学部生の創作意欲の向上に役立っています。

高槻ミューズキャンパス

味わおう!

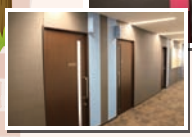
名物

【高槻ミューズキャンパス 学生食堂】
地域の「防災拠点になる」べく、キャンパス内の施設の一部を一般に開放している高槻ミューズキャンパス。学生食堂も、学生だけでなく地域の方々や保護者の方の憩いの場所になっています。

行ってみよう!

名所

大学



高等部

中等部

初等部

【カラーコンセプト・サイン表示】
初等部から大学まで、学生の成長に合わせてカラーリングを変化させ、世代ごとに異なるインテリアを配する高槻ミューズキャンパスの学舎。移動するたび、変化に富んだ表情を見せるキャンパスを楽しんでください。

堺キャンパス

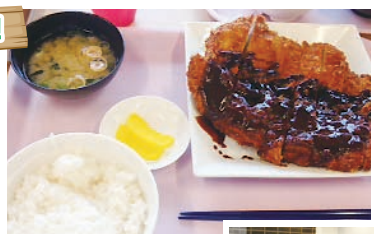
ホッとしよう!

名所

【Evergreen(芝生広場)】
堺キャンパスの学生が集う鮮やかなグリーンの芝生広場。日射しが暖かい日は、学生が芝生の上でお昼ご飯を食べる姿も見受けられ、学生の憩いの場となっています。

食べてみよう!

名物



【Cafeteria Port(食堂)】
Evergreenを見渡せる食堂では、リーズナブルな料金で定食などを提供しています。最近の流行は、ジャンボチキンカツ定食と、夏にぴったりのかき氷!!
ジャンボチキンカツのあまりの大きさに、出てきた瞬間歓声(悲鳴!?)を上げる女子学生も…。

今月のシンクアクトさん くん
関大生の友の輪

システム理工学部4年次生

井上哲貴さん

ボランティア活動は人を大きく成長させます。

NPO法人 国際ボランティア学生協会IVUSA（イビューサ）の学生代表を務める井上さんは、中学生のころまでは夢中になれるものがなかったと言います。転機は高校時代、先生に幼稚園でのボランティア活動を勧められたときに訪れました。まず「疲れる」という感想から始まり、次に「子どもってかわいい」、そして最後には「自分が周囲からどう見られているか」というような社会性の自覚を持つまでになったそうです。

会員2,000人以上を擁するIVUSAは、主に4本柱と呼ばれる「災害救援（防災）」、「環境保護」、「地域活性化」、「国際協力」の分野で活動しています。その活動の中で井上さんの印象に強く残ったのは2011年、震災後のボランティア活動。「被災地の人たちは皆、暗い表情をされていたけれど、自分たちはあくまでも元気よく作業するよう心掛けました。そうやって元気を届けることで被災地の人たちにも笑顔が戻り、津波の恐怖から海を見ることができなくなったというお年寄りも自分たちとの触れ合いを喜んでくれるようになりました」。

IVUSAへの参加動機は、初めは単純に「面白そう」という気持ちもあったけれど、次第に自分たちの力で「社会問題を解決する」ことを実感できるようになり、目の前が開ける思いがしたからだそうです。だからこそ井上さんは、「ボランティアは万人にやる意義があるし、大学に入って何をしようかと迷っている人は、ぜひ参加してほしい。得るものは間違いなく、ここにある！」と、熱く語ります。大学卒業後も活動を続行するという井上さんの次なる目標は、琵琶湖での外来植物の大規模撤去作業。強い繁殖力を持つ厄介な外来種を、1,000人単位で撤去しようと考えているのだとか。

こうした活動以外にもIVUSAでは、研修も実施しています。それは経済産業省が提唱する「社会人基礎力」育成のためのプログラム。社会に通用する人材育成を独自に行うというものです。ここで考え抜く力（Thinking）、前に踏み出す力（Action）、チームで働く力（Teamwork）を身に付けたメンバーは、きっと社会に出ても大いに活躍してくれることでしょう。

将来については「模索中ですが、目標だったIVUSAの学生代表の座を叶えたように、モットーの初志貫徹を胸に抱き“社長”を目指します！」。そう言って井上さんはほほ笑みました。

NPO法人 国際ボランティア学生協会IVUSA

IVUSAは1992年に当時の学生たちが、さまざまな夢を実行しようという「夢企画」から始まりました。当初の「勇気」、「冒険心」、「遊び心」を持った「夢」は次第に、「社会貢献への意欲」に姿を変えていき、現在の大規模な学生ボランティア団体へと成長したのです。今では国内外を問わずその活躍の場を広げています。

次回は、井上さんからのご紹介でラクロス同好会の井上花さん（文4）が登場。お楽しみに！

Inoue Tetsuki

平成25年度 学校法人関西大学 決算の概要

― 創立130周年に向けた新たな展開 ―

この伝統を、超える未来を。
130 KANSAI UNIVERSITY

学校法人関西大学 理事長 池内 啓三

1　はじめに

平成25年度決算は、常任理事会の審議を経て、理事会（平成26年5月15日）で議決・承認され、評議員会（平成26年5月29日）に報告いたしました。

平成25年度は、平成22年度に同時開設した学部・学校等が完成年度を迎え、さらに平成26年度には人間健康研究科が開設したことにより、本学は、13の学部、15の大学院研究科（3専門職大学院を含む。）および留学生別科を有する大学と、幼稚園から高等学校までの8つの併設校をあわせて、35,000人を超える学生生徒等を擁する総合学園となりました。

大学においては、国際社会を牽引する高度な人材の育成を目指した教育力の向上と新たな国際化プログラムの開発、イノベーション創出に向けた学術研究分野の高度化と国際的な情報発信力の強化など、さらなる飛躍を実現するため、様々な事業を展開しました。

併設校においては、各校の特色を明確にしながら、連携と競争による相乗効果を高めています。平成25年度に創立100周年を迎えた関西大学第一高等学校・第一中学校は、プールの建替えや校舎のリニューアルなどの記念事業を実施しました。関西大学高等部では、文部科学省から、平成26年度「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」の指定を受け、大学と連携し、高校段階からグローバルリーダーの育成を担う教育機関として期待されています。

関西大学は、明治19年に関西法律学校として大阪の地に誕生して以来、建学の精神のもと、「学の実化（じっけ）」を学是に掲げ、一貫して社会・市民の啓発と教育に取り組んでまいりました。平成28年度に創立130周年を迎えるにあたり、平成25年度には記念事業および記念募金の実行計画を策定しました。基本方針に「国際性」、「知性と先進性」、「歴史と伝統」の3つのテーマを掲げ、「オール関大」の強みを発揮し、新しい歴史の幕開けにふさわしい事業を展開してまいります。

このように、本学が長期行動計画を基軸に諸改革を推進し、永続的に発展・成長していくためには、教育研究活動を支える財政基盤をこれまで以上に安定させていかねばなりません。

今後も、財政の長期安定化を目指し、さらなる努力を重ねてまいりますので、みなさま方のご理解とご支援を賜りたく存じます。

2　事業の概要

平成25年度に実施した事業のうち主なものは、次のとおりです。

(1) 教育研究活動

ア　大学間連携共同教育推進事業「ライティング／キャリア支援」の展開

2年目の取り組みとなった、文部科学省大学間連携共同教育推進事業「<考え、表現し、発信する力>を培うライティング／キャリア支援」は、「ライティングラボ」を全学的に展開し、その取り組みを積極的に学内外に発信しました。コラボレーションコモンズ内に開設した「ライティングエリア」をはじめとして、ライティングラボを整備し、支援体制の充実を図りました。英語によるライティング支援や啓発行事、教育カリキュラムとの連携、社会連携に関わる取り組みなどを順次実施し、ラボの利用者は前年度に比べ約7割増えました。

イ　「コラボレーションコモンズ」の展開

平成25年4月に、凜風館1階に「コラボレーションコモンズ」を開設しました。

学生自らが企画・運営した「学生ラーニングカフェ」や留学生と本学学生の交流の場となる「外国語会話交流会」など、「学生同士」のコラボレーションによる「考動力」あふれる人材育成へとつながるさまざまな取り組みを展開しました。

ウ　文部科学省補助金などの獲得

平成25年度も、教育・研究の質的向上を目指して、文部科学省等が募集する各種の補助金プログラムに申請しました。

東アジア文化研究科では、グローバルCOEの実績により平成24年度に選定された文部科学省「卓越した大学院拠点形成支援補助金」が高い評価を受け、平成25年度も優先的に継続採択されました。この補助金は、博士課程の優秀な学生を世界で活躍できる研究者として輩出する環境づくりの推進を目的に交付されるものです。

研究分野では、文部科学省が募集する大型プロジェクト「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」において、新たに研究プロジェクト4件が選定を受け、平成25年度は13件のプロジェクトが先端研究を推進しました。本学は、全国の私立大学のなかで、常に第1位の実績を誇っております。

また、先端科学技術推進機構では、文部科学省の補助金を活用して、最新鋭の研究装置・設備群を設置しました。これにより、産学官連携・共同研究体制を一層強化し、大型外部資金の獲得も目指します。今後は、理工学系・社会科学系の枠組みを超えたイノベーション創出拠点を形成していきます。

エ　「次世代グローバルリーダー」育成に向けた新たな国際化プログラムの開発

キャンパスの国際化と考動力あふれる次世代グローバル人材の育成と輩出のために、「KUGF（Kansai University Global Frontier）プログラム」と「国際協力サービスラーニングプログラム」を開発し、平成26年4月に共通教養科目として開設しました。「KUGFプログラム」は本学で学ぼうとする海外留学生および本学から海外へ留学する日本人学生を対象に、英語で授業を実施します。

また、「国際協力サービスラーニングプログラム」は、理論と実践を連環させた国際貢献型体験学習により、様々な状況下で、新たな地平を切り拓くことができる「考動する関大人」の育成を目指します。

オ　学生相談・支援センターの開設

平成25年4月に、学生相談全体のハブ機能を担う学生相談・支援センターを開設しました。当センターでは、専門的知見を持つ支援コーディネーターを配置し、心理相談室とも連携を図りながら、対応が難しい発達障がいや心理的な相談にも的確な支援を展開しています。また、障がいのある学生が他の学生と同等の条件で修学できるよう、学生支援スタッフとともに正課授業を中心に、点訳、ノートテイク、パソコンテイク等の支援を行い、修学環境の充実を図りました。

カ　就職状況・キャリア形成支援について

平成25年度は、アベノミクスの効果により株価の上昇や円安が進み、企業業績は回復基調となりました。その影響を受け、特に都市銀行を中心に金融業界の採用意欲が高く、採用抑制傾向であった製造業においても採用数を増加するなど、採用マーケット全体が底上げされた結果、本学学生の就職率は96.3%となり、前年度を0.5%上回りました。

エクステンション・リードセンターでは、英語講座TOEIC®、TOEFL®、公務員、司法、会計職などの13講座を主に千里山キャンパスで開講し、高槻ミューズキャンパスや堺キャンパスでの開講講座をあわせた受講生は延べ3,148名となり、宅地建物取引主任者、総合旅行業務取扱管理者などの資格試験で、全国平均合格率を上回りました。

キ　モバイルポータルシステムの開発・運用

学生にとって日常生活に欠かせないツールになっている、スマートフォンならではの機能を活かしたモバイルポータルシステム「モバイル関大」を企画・開発し、アプリストアに公開しました。「モバイル関大」では本学が発信するお知らせ、教務情報、教室マップ、施設情報などキャンパスライフに必要な情報に、スマートフォンで手軽にアクセスできます。

【モバイル関大　画面】

(2) 教育研究環境の整備充実関係

ア　関大前駅北東側土地の取得

平成25年9月に千里山キャンパスの狭隘化解消や阪急関大前駅から正門前に至る通行安全確保などを目的として、関大前駅の北東側にある敷地3,392.18㎡（1,026.13坪）を取得しました。創立130周年記念事業の一環として、「アクセス空間」の整備と「知的創造空間」の創出を計画しています。

イ　高槻キャンパス高圧受変電設備更新工事及び発電機設備設置工事

高槻キャンパス開設時に設置した高圧受変電設備の老朽化が著しいため、全面更新工事を行い、あわせて、棟ごとに電源遮断器を設置することで、キャンパス全域の停電を回避できるようになりました。またバックアップ電源として、ガスコージェネレーションを設置し、エネルギーの複線化を図りました。

ウ　北陽高等学校・中学校総合体育館建替工事

昭和39年竣工の北陽体育館を建替え、「北陽高等学校・中学校総合体育館」を建設しました。新たな体育館は鉄骨造4階建で、延床面積7,935.12㎡(2,400.37坪)で1階には屋内型温水プール、柔道場・武道場、トレーニングルームを、2階には小競技場、防災備蓄庫などを、3階および4階にかけては1,300名収容の講堂兼アリーナ、4階にはランニングレーンを配置しました。

【北陽高等学校・中学校総合体育館】

(3)創立130周年記念事業

平成28年11月に迎える創立130周年に際し、記念事業の気運を盛り上げるため、キャッチコピーおよびシンボルマークを募集し、キャッチコピー922件、シンボルマーク178件の応募の中から、最優秀作品を選定しました。

また、来たる130周年に向け、平成26年3月に記念事業および記念募金に係る実行計画を決定しました。今後、地域社会や世界に貢献できる教育研究のより一層の充実を目指し、各種事業を実施します。

3　収支計算書

平成25年度決算書をはじめ、関西大学の財務情報は本学ウェブサイトで

学校法人は、予算によって執行された結果である決算について、文部科学省令の「学校法人会計基準」に基づき、財務計算に関する書類として、「資金収支計算書」、「消費収支計算書」、「貸借対照表」とそれぞれの内訳表あるいは明細表の計算書類を作成することになっています。

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出の内容を明らかにし、かつ、支払資金の収入・支出のてん末を明らかにするものです。資金の動きのすべてが計算の対象となります。

「消費収支計算書」は、当該会計年度における消費収支の均衡状態と、その内容を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示すものです。

「貸借対照表」は、学校法人の一定時点(決算日)における資産、負債、基本金、消費収支差額の財政状態を示すものです。

「財産目録」は、「貸借対照表」を基準にして組み替えて作成したものです。

「監査報告書」には、私立学校法第37条第3項第3号に基づく監事による「監事監査報告書」および私立学校振興助成法第14条第3項に基づく監査法人による「独立監査人の監査報告書」があります。

ここでは紙幅の関係上、計算書類の総括表のみ掲載しておりますが、「関西大学ウェブサイト」に財産目録などの詳細な財務情報を掲載いたしておりますので、ご覧ください。

【URL:http//www.kansai-u.ac.jp/zaimu/】

4　収支決算の概要

資金収入は543億円、人件費支出は251億円

「資金収支計算書」、「消費収支計算書」、「貸借対照表」の概要について説明いたします。

(1)資金収支決算

平成25年度資金収支決算は、12ページに掲載の「資金収支計算書(総括)」のとおりです。

資金収入は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、補助金収入などの法人に帰属する収入のほか、前受金収入なども含め、543億1,523万6,434円となりました。

資金支出は、教職員の人件費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費、施設設備費のほか、借入金返済などの支出を含め、540億9,852万8,298円となりました。この結果、収支差引き2億1,670万8,136円の収入超過となり、これに前年度繰越支払資金130億5,286万1,271円をあわせた結果、次年度繰越支払資金は、132億6,956万9,407円に増加しました。

(2)消費収支決算

平成25年度消費収支決算は、12ページに掲載の「消費収支計算書(総括)」のとおりです。

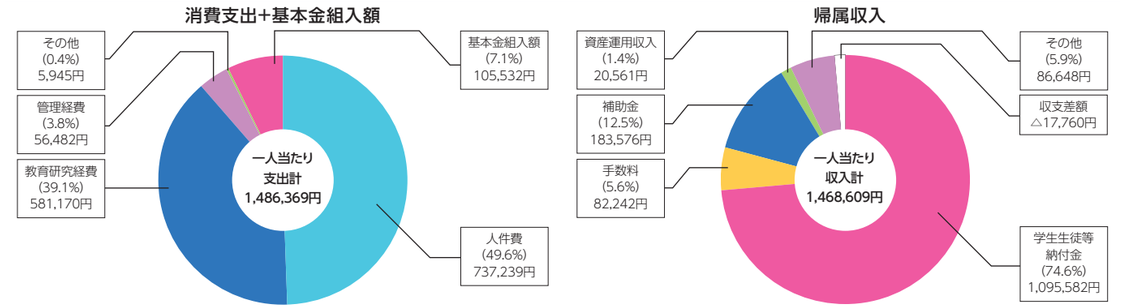
帰属収入は、学生生徒等納付金、手数料、補助金などの法人に帰属する負債とならない収入で、500億1,348万1,707円となりました。また、基本金組入額は、35億8,795万7,653円となりましたので、帰属収入から基本金組入額を控除した消費支出に充当することができる消費収入は、464億2,552万4,054円で、予算に対し7億5,968万4,054円の増となりました。

一方、消費支出は、教職員の人件費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費で、470億3,034万1,680円となりましたので、平成25年度決算における消費収支の均衡状況は、6億481万7,626円の消費支出超過となりました。この結果、翌年度繰越消費収支差額は、前年度繰越消費支出超過額が409億3,435万9,436円でありましたので、415億3,917万7,062円を翌年度繰越支出超過額として計上することが確定しました。

(3)貸借対照表

平成25年度末(平成26年3月31日)現在の資産、負債、基本金、消費収支差額の財政状態を示しています。

平成25年度　消費収支決算における「学生生徒等一人当たりの支出とこれを賄う収入」



(注) 1 (消費支出+基本金組入額)および帰属収入の決算額を、科目ごとにそれぞれ学生数34,055人(大学院・学部・留学生別科・高等学校・中学校・小学校・幼稚園の学費納入者合計)で除して、学生生徒等一人当たりの平均値を示している。
2 「基本金組入額」とは、校地、校舎、機器備品、図書などの取得、あるいは、そのための借入金の返済、または、将来取得のための積立金などの主として資本的支出に充てる額である。

資金収支計算書(総括)　平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位　円)

支出の部				収入の部			
科　目	予算	決算	差異	科　目	予算	決算	差異
1 人件費支出	24,873,344,000	25,122,161,998	△ 248,817,998	1 学生生徒等納付金収入	37,136,171,000	37,321,429,056	△ 185,258,056
2 教育研究経費支出	13,735,482,000	14,062,618,610	△ 327,136,610	2 手数料収入	2,595,380,000	2,797,955,745	△ 202,575,745
3 管理経費支出	1,701,322,000	1,714,166,527	△ 12,844,527	3 寄付金収入	390,000,000	405,785,218	△ 15,785,218
4 借入金等利息支出	102,296,000	59,902,420	42,393,580	4 補助金収入	5,996,441,000	6,271,686,487	△ 275,245,487
5 借入金等返済支出	851,470,000	836,380,000	15,090,000	5 資産運用収入	605,200,000	685,453,825	△ 80,253,825
6 施設関係支出	4,587,859,000	4,416,445,778	171,413,222	6 資産売却収入	32,351,000	174,651,015	△ 142,300,015
7 設備関係支出	2,633,591,000	2,959,993,482	△ 326,402,482	7 事業収入	1,050,644,000	992,698,711	57,945,289
8 資産運用支出	4,564,013,000	3,201,069,715	1,362,943,285	8 雑収入	1,221,340,000	1,275,835,134	△ 54,495,134
9 その他の支出	3,554,634,000	3,326,223,370	228,410,630	9 借入金等収入	2,116,000,000	1,960,000,000	156,000,000
10 予備費	500,000,000	—	500,000,000	10 前受金収入	6,234,786,000	6,666,922,910	△ 432,136,910
11 資金支出調整勘定	△ 1,839,949,000	△ 1,600,433,602	△ 239,515,398	11 その他の収入	4,122,209,000	4,379,932,143	△ 257,723,143
(小計)	(55,264,062,000	54,098,528,298	1,165,533,702)	12 資金収入調整勘定	△ 8,104,483,000	△ 8,617,113,810	512,630,810
12 次年度繰越支払資金	11,184,838,000	13,269,569,407	△ 2,084,731,407	(小計)	(53,396,039,000	54,315,236,434	△ 919,197,434)
				13 前年度繰越支払資金	13,052,861,000	13,052,861,271	△ 271
支出の部合計	66,448,900,000	67,368,097,705	△ 919,197,705	収入の部合計	66,448,900,000	67,368,097,705	△ 919,197,705

(注)予算の流用を含む。

消費収支計算書(総括)　平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位　円)

消費支出の部				消費収入の部			
科　目	予算	決算	差異	科　目	予算	決算	差異
1 人件費	24,735,196,000	25,085,485,523	△ 350,289,523	1 学生生徒等納付金	37,136,171,000	37,321,429,056	△ 185,258,056
2 教育研究経費	19,505,339,000	19,789,034,238	△ 283,695,238	2 手数料	2,595,380,000	2,797,955,745	△ 202,575,745
3 管理経費	1,932,757,000	1,944,076,266	△ 11,319,266	3 寄付金	508,000,000	524,508,054	△ 16,508,054
4 借入金等利息	102,296,000	59,902,420	42,393,580	4 補助金	5,996,441,000	6,271,686,487	△ 275,245,487
5 資産処分差額	143,615,000	150,393,253	△ 6,778,253	5 資産運用収入	605,200,000	685,453,825	△ 80,253,825
6 徴収不能引当金繰入額	0	212,500	△ 212,500	6 資産売却差額	643,000	142,942,815	△ 142,299,815
7 徴収不能額	0	1,237,480	△ 1,237,480	7 事業収入	1,050,644,000	992,698,711	57,945,289
8 予備費	500,000,000	—	500,000,000	8 雑収入	1,221,340,000	1,276,807,014	△ 55,467,014
				帰属収入合計	49,113,819,000	50,013,481,707	△ 899,662,707
				基本金組入額合計	△ 3,447,979,000	△ 3,587,957,653	139,978,653
消費支出の部合計	46,919,203,000	47,030,341,680	△ 111,138,680	消費収入の部合計	45,665,840,000	46,425,524,054	△ 759,684,054
				当年度消費支出超過額	1,253,363,000	604,817,626	648,545,374
合　計	46,919,203,000	47,030,341,680	△ 111,138,680	合　計	46,919,203,000	47,030,341,680	△ 111,138,680
当年度消費支出超過額	1,253,363,000	604,817,626					
前年度繰越消費支出超過額	40,934,359,000	40,934,359,436					
翌年度繰越消費支出超過額	42,187,722,000	41,539,177,062					

(注)予算の流用を含む。

貸借対照表　平成26年3月31日

(単位　円)

科　目	平成25年度末	平成24年度末	増　減
資産の部			
固定資産	192,773,086,922	189,939,759,962	2,833,326,960
有形固定資産	114,609,478,127	113,159,743,346	1,449,734,781
その他の固定資産	78,163,608,795	76,780,016,616	1,383,592,179
流動資産	16,451,825,572	15,332,523,307	1,119,302,265
資産の部　合　計	209,224,912,494	205,272,283,269	3,952,629,225
負債の部			
固定負債	19,081,447,076	18,272,613,551	808,833,525
流動負債	10,038,396,276	9,877,740,603	160,655,673
負債の部　合　計	29,119,843,352	28,150,354,154	969,489,198

科　目	平成25年度末	平成24年度末	増　減
基本金の部			
第1号基本金	198,152,986,375	194,329,341,847	3,823,644,528
第2号基本金	400,000,000	758,253,871	△ 358,253,871
第3号基本金	19,885,259,829	19,844,692,833	40,566,996
第4号基本金	3,206,000,000	3,124,000,000	82,000,000
基本金の部　合　計	221,644,246,204	218,056,288,551	3,587,957,653
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	△ 41,539,177,062	△ 40,934,359,436	△ 604,817,626
消費収支差額の部　合　計	△ 41,539,177,062	△ 40,934,359,436	△ 604,817,626
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部　合　計	209,224,912,494	205,272,283,269	3,952,629,225

学部・研究科トピックス

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、
トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

法学部／法学研究科

関西大学と正木典膳

本は読むたびに新たな発見があります。高橋和巳の小説『悲の器』の主人公正木典膳は、刑法学者でして、東京にある国立大学法学部の学部長という設定です。責任無能力者、動物でさえも確信犯と見なす正木厳法主義なる学説は、世界の刑法学界に衝撃を与えたのだそうです（本当か?!）。家政婦から婚約不履行で訴えられて窮地に陥った正木に対し、千里山に住む娘の義父（銀行家）の口利きで、そのすぐ近くにある私立大学から招聘の話が来ます。これは関西大学のことでしょう。再読して気付きました。

（学生主任　飯島暢教授）

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

人文学的教養がひらく教員の未来

大阪府・大阪市合同の現職教員研修会に、毎年、関大の教員が講師で参加しています。昨年は8月の開催。文学部では、前回6人の教員が「大阪の映画文化史」「ドイツの都市と文化の歴史を読む」「難しいアジア文化理解」といった多彩なテーマで講義し、現職の先生方と語らいました。多忙化した学校現場では、何事も迅速な対応を求められています。だからこそ定形的思考を脱しじっくり課題に向き合う上で、人文学的な教養はかえって新鮮な価値を帯び、未来を切りひらく逆転の知となるように思います。

（学生主任　広瀬義徳准教授）

経済学部／経済学研究科

フレッシュマンセミナーを開催

5月9日～10日に経済学部自治会主催のフレッシュマンセミナーが飛鳥文化研究所で開催されました。石舞台古墳の見学、クリーンアップキャンペーンを兼ねたウオークラリー、講演会、グループディスカッションと内容の濃いセミナーでした。特に、「本学に新学部をつくるならばどのような学部がよいか」、「大学入試センター試験に代わる入試制度をつくるならばどのような制度がよいか」というテーマで、学年関係なく積極的に意見を出し合って議論していたグループディスカッションが印象的でした。

（学生主任　石井光准教授）

商学部／商学研究科

関西大学ビジネスプラン・コンペティションKUBICを開催

KUBIC（キュービック）は商学部独自の教育プログラムです。全国の大学生や高校生、そして一般の方々から応募されたビジネスプラン約1,600件（応募件数）を学内外の審査員が、厳正な審査を行っています。「学生の力」を基本理念とするKUBICの企画・運営には商学部学生33人があたっています。8月には本選会に出場できる優勝候補作品が決定します。本選会は9月27日（土）BIGホール100で開催します。記念品も用意していますので、ぜひ優勝候補作品のプレゼンテーションをご覧ください。

（長谷川伸准教授）

社会学部／社会学研究科

第3学舎がリニューアルします

社会学部では夏期休暇から第3学舎の大規模改修に取り掛かります。改修では主に耐震補強とバリアフリー化やラーニングコモンズの設置など、学生が快適に勉学に励むことができる教室への改修を行います。特に村野藤吾が設計した1号館は、設計当時の雰囲気を残しつつ改修を進めていきます。改修は数期間に分けて行われます。この間に第3学舎を訪れる方々にはご迷惑をお掛けしますが、アップデートされた新たな第3学舎をどうぞご期待ください。

（学生主任　小川一仁准教授）

政策創造学部／ガバナンス研究科

うれしい貢献

学部生の活動の一つとして、学外での社会貢献活動があります。大阪府池田市では地域コミュニティ推進協議会と学部生が協力し、子どもと地域の絆を強めるプロジェクトを構築中です。以前の活動実績が認められ、今年度も協議会から協力要請があったようで、指導教員としてはちょっぴりうれしい気持ちです。

（深井麗雄教授）

外国語学部／外国語教育学研究科

外国語を用いたボランティア活動

外国語学部には、外国語を活用してボランティアに参加している学生たちがいます。2年次の「スタディ・アブロード」の留学先で、現地の小学生の学びの補助や、地域の清掃活動に参加したり、プログラム終了後も、留学先の一つであるフィリピンの子どもたちの教育や生活環境改善のためのプロジェクトに関わったりしています。また国内では、吹田市や高槻市の幼稚園・図書館での英語絵本の読み聞かせや、英語を用いたイベントの補助を通し、外国語を学ぶ子どもたちに楽しいきっかけを提供できるよう努めています。

（石原敏子教授）

人間健康学部／人間健康研究科

関西私学第1位の合格率

人間健康学部は2014年春、初の卒業生を輩出しました。福祉と健康コースに属する学生の一部は、国家資格である社会福祉士の取得を目指しますが、一期生の合格率は48.6%。全国平均が27.5%の中で、2倍近い合格率になります。これは、近畿の私立大学で第1位、全国でも第6位です。学生たちは、自主的な勉強会を組織し、毎週熱心に受験勉強に取り組みました。このような主体的な努力が合格率という成果として現れたものと評価できます。このような学生と一緒に勉強できたことは、教員の誇りです。

（山縣文治教授）

総合情報学部／総合情報学研究科

高槻キャンパス祭～百花繚RUN!～を開催

今年の高槻キャンパス祭は「百花繚RUN」をテーマに5月25日に開催されました。本年度は20回目の節目にふさわしい華やかさで、総合情報学部の特色が出たキャンパス祭となりました。会場では毎年大好評のスタジオイベントのほか、体育施設の開放、応援団による演舞・演奏、模擬店、研究発表、そして大人気のフリーマーケットなどの企画が実施されました。また、高槻市のマスコット「はにたん」の登場や高槻名物「うどんギョーザ」の出店でも盛り上がり、最終的な来場者は3,000人を超えました。

（高槻キャンパスオフィス）

社会安全学部／社会安全研究科

成績優秀者表彰式を実施

社会安全学部では、年度ごとに各学年の成績上位者10人を表彰しています。今年は4月7、9、12日に表彰式を実施し、写真のような楯と社会安全学部で編集した図書『防災・減災のための社会安全学』を贈呈しました。この制度が、学生の皆さんの勉学の励みになることを期待しています。

（副学部長　山川栄樹教授）

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

理工系3学部・理工学研究科の夏

7月には「到達度の確認」や「春学期末試験」が行われます。春学期の学習を振り返って知識を確かなものとし、万全の態勢で臨んでください。試験が終われば夏休みですが、8月23日（土）には理工学研究科博士課程前期課程の一般入学試験があります。受験される皆さんは休暇返上で試験勉強に取り組まれることでしょう。これも学部で得た知識を定着させる絶好のチャンスです。専門分野の講義を体系的に一通り終え、個々の科目相互の関係を把握した上で見直せば、きっと新しい発見があるでしょう。

9月には、第4学舎自衛消防訓練が実施されます。本学の「消防計画」に基づいて毎年行われているもので、学生、教員、事務職員、関連業者、警備員が参加します。火災を起こさないことが第一ですが、万が一火災が発生した場合、各自が冷静に適切な行動を取り、安全を確保するためには、訓練による事前のシミュレーションが重要です。皆さんが目的意識を持って能動的に参加されることを期待します。

この他、夏休みには「サイエンスセミナー」や「サマーキャンパス」が開催され、多くの小学生、中学生、高校生がキャンパスを訪れます。大学で学ぶことの面白さや楽しさを伝えるべく、教員や学生の皆さんが工夫を凝らし、さまざまなイベントを通して理工系の魅力をアピールします。

社会に出れば、今のように長期の夏休みを取ることは難しいでしょう。この学生時代の特権をぜひ自己研さんのために行使し、皆さんが何らかの目標を持って有意義で充実した夏を過ごされるよう願っています。

（環境都市工学部入試主任　松田敏准教授）

専門職大学院トピックス

臨床心理専門職大学院

「精神医学」の講義で「解剖学」!?

臨床心理専門職大学院では、「精神医学」の講義を1年次に行っています。講義では、主に精神疾患の病態や治療などを勉強しますが、それに加えて、「解剖学」や「医学に関する法律」、「生理学」、「薬理学」など、医学一般について幅広く学びます。これらの知識は、将来、臨床現場での他職種との「協働」の際に役立ちます。臨床心理士の活躍の場は、医療・教育・福祉分野など多岐にわたっており、他職種との関わりも多いため、幅広い知識を身に付けていることで周囲との連携や情報交換がスムーズに行われます。また、これらの知識を基礎にして、生物学的・心理学的・社会的側面からのアプローチが可能となり、対象者への多面的な関わりが期待できます。

（堺景子特別任用教授）

併設校トピックス

関西大学中等部

新たな連携の第一歩 ～琵琶湖畔での宿泊研修～

本年3月に初等部を卒業した第1期生を含む中等部1年生が5月26日～27日に琵琶湖畔で宿泊研修を実施しました。小雨の中クラスで協力し、ロープワークでエアフロートと角材を固定してイカダを作り、クラス対抗レースを行いました。宿泊研修は生徒による各委員会の企画・運営力に頼ることも多く、初等部からの内部生と外部生が相互の立場や経験を尊重しつつ、研修を行い、初等部と中等部の新たな連携のスタートとなる有意義な2日間となりました。

（中等部教頭　櫻井譲）

Attention 大学からの重要なお知らせ

「定期試験（筆記試験）」「到達度の確認」の注意事項・受験心得

初めて試験を受ける１年次生必見！

1　学生証を忘れずに!

学生証がない場合は試験を受験できません。紛失した場合は、至急教務センター（もしくは各キャンパス事務室）で再発行の手続きをしてください。試験日に忘れた場合は、教務センター・各学舎授業支援ステーション・各キャンパス事務室で「受験許可証」の交付を受けてください。

2　試験の教室や曜限に注意!

通常授業と教室や曜限が異なる場合があります。また、同じ科目でも学籍番号によって教室が分かれている場合もあります。インフォメーションシステムの「試験システム」で必ず確認してください。

3　不正行為には厳正に対処

不正行為をした場合は、春学期試験ですでに受験した科目は全て無効になり、残りの科目についても一切受験できません。なお、答案を持ち帰ることや、故意に学籍番号・氏名を偽った場合も不正行為になりますので注意してください。

4　遅刻は厳禁!

授業でも試験であっても遅刻は厳禁です。試験を受験できない場合もありますので注意してください。また、公共交通機関の遅延など不測の事態にも対応できるよう、早めの通学を心掛けてください。

5　病気など正当な理由で受験できない場合は…

医師の診断書など証明書がある場合は、「追試験」・「到達度の確認に相当する学力確認」を受けることができます（受験料1,000円）。教務センターもしくは各キャンパス事務室で手続きしてください。

6　成績発表の日時・確認方法

インフォメーションシステムで発表します。日時等は「お知らせ」で確認してください。

KANDAI Topics

関大トピックス

人間健康研究科開設記念事業 スポーツフォーラム2014を開催

堺キャンパスで6月1日、産経新聞社との共催による人間健康研究科開設記念事業「スポーツフォーラム2014」を開催しました。午前中は、人工芝広場において、セレッソ大阪堺レディースのコーチ陣協力のもと「女子向けサッカークリニック」が開催され、約60人の女子小・中学生が爽やかな汗を流しました。

午後からは女性スポーツ選手の活躍と可能性などを考えるフォーラム「今、スポーツ女子、輝く瞬間」が開催され、約200人が参加しました。ソチ五輪女子カーリング日本代表の小笠原歩さんは本学の小田伸午教授と対談し、ストーンを投げる姿勢を実演しながら、さまざまなエピソードを披露。また、続くパネルディスカッションでは小笠原さんに加え、女子重量挙げでロンドン五輪銀メダリストの三宅宏実さん、女子サッカー元日本代表の大谷未央さん、テレビ朝日の宮嶋泰子エグゼクティブアナウンサーが登壇し、「スポーツ女子」をテーマに活発に意見交換が行われました。

協賛：カネカ、コノミヤ、スパワールド

第37回総合関関戦を開催

6月13日から15日の3日間、関西大学と関西学院大学の体育会が良きライバルとして親睦を深める第37回総合関関戦が開催され、千里山キャンパスを中心に熱戦が繰り広げられました。

過去5年連続で負けを喫しており、必勝を期して挑んだ関西大学。射撃部が17年連続、アイスホッケー部が11年連続、ボクシング部が10年連続で勝利し、弓道部は6年ぶりに勝利を収めるなど、各クラブが健闘しましたが、総合成績では15勝19敗3分けで、関西大学は今年も勝利には手が届きませんでした。これで総合関関戦の通算成績は16勝20敗となりました。

開会式の様子

「関大みんなの傘」が追加されました

昨年の9月20日からスタートした、無料の貸傘サービス「関大みんなの傘〜Kandai Shared Umbrella〜」が、今年6月中旬から新たに600本を増やして、千里山キャンパス、高槻キャンパス、高槻ミューズキャンパス、堺キャンパスの各所および阪急関大前駅改札付近に設置されました。このサービスは関大生へのサービス向上や地域貢献の一環として実施されているものですが、最初導入した700本の傘がほとんど返却されずなくなってしまったため、新たに追加されたものです。傘をシェアすることを通じて、人と人とのつながりを感じ、お互いが思いやりの心を持ったコミュニティーを形成する一助となることを目指して導入されたサービスですので、傘を借りた人はマナーを守りきちんと返却しましょう。

「世界を魅せたトップスケーター　髙橋大輔選手 織田信成選手　町田樹選手　栄光の軌跡」を開催

千里山キャンパス簡文館にて、本学が世界に誇るトップスケーターの髙橋大輔さん（文学研究科M2年次生）、織田信成さん（文学研究科M2年次生）、町田樹さん（文学部4年次生）の特別展「世界を魅せたトップスケーター　髙橋大輔選手　織田信成選手　町田樹選手　栄光の軌跡」を開催しています。

今年3月に開催された世界選手権で町田さんが獲得した銀メダルや、3選手がオリンピックや世界選手権などで着用した演技衣装を展示するほか、これまでの軌跡を写真パネルでご覧いただけます。

期間・会場

8月4日（月）までの10：00〜16：00（終了日は予定）
※日・祝日は休館
〔8月3日（日）は除く〕
簡文館2階
博物館常設展示室

入 館 料

無料

宅配専用ロッカー「楽天BOX」の試験運用を開始

楽天株式会社が運営するインターネット・ショッピングモール「楽天市場」において、注文した商品を学内で受け取ることのできる専用宅配ロッカー「楽天BOX」を学内に設置し、5月27日から千里山キャンパスで試験運用を開始しました。

このサービスは、あらかじめ所定の方法で登録したユーザーが、「楽天市場」で商品を注文する際、配送（受取）方法を「楽天BOX」と選択することで購入商品を専用の宅配ロッカーで受け取ることができるもので、国内の大学として初。

「楽天BOX」の利用は、楽天が運営する専用サイトで、あらかじめ登録した本学在学生および教職員のみが利用することができます。

関大人 四方山話（よもやまばなし）◆「南アフリカとつながる日本・大阪」　経済学部　北川勝彦 教授

アフリカ大陸の中で南アフリカ共和国との付き合いはずいぶん長くなった。2013年12月に他界されたマンデラ元大統領が1990年2月に釈放され、10月に大阪の扇町プールでの歓迎集会に姿を見せた時の記憶は今も鮮明に残っている。民主南アフリカの誕生とマンデラ大統領の着任のあった1994年の翌年、しかも阪神・淡路大震災の起こった1995年4月に関西大学に着任して以来、ずっと経済学部のゼミナールの学生たちと南アフリカ経済や日本と南アフリカの関係について勉強を続けてきた。携帯電話、スマートフォン、LED照明、自動車の排気ガス浄化装置など、日本の主要産業に不可欠なレア・メタル（白金、マンガン、バナジウム）、それにアフリカに自生する植物から作ったカフェイン・ゼロの健康茶ルイボスティーは、南アフリカから来ている。2011年3月11日に起こった東日本大震災の時に、南アフリカ政府がRescue South Africaを派遣して、宮城県岩沼市、名取市、石巻市、多賀城市で救助、探索、がれきの撤去作業に従事したことも忘れないでおきたい。

編集後記

今回は、加納先生にお手伝いいただいて障がい者支援について取り上げました。私もかつて知的障がい児を支援するイギリスのNPOでボランティアを経験しました。夏休みに、毎日子どもたちと食事やゲームをするのですが、興味深かったのは、スタッフの次の一言。「夏休みは子どもがずっと家にいるから、親が参ってしまうでしょ。だから親が休めるように、子どもたちを預かるのよ」。障がい児の親を支援する、という発想にはっとし、一気に視野が開けました。皆さんも参加してみてください。世界がきっと広がります。（広報委員・社会学部准教授 村田麻里子）

今月の表紙：関関COLORSの皆さん：谷口由佳さん（政策3）、上島由梨乃さん（商3）、吉田理紗さん（法4）、和田みづきさん（法4）、琴地悠太さん（社4）、大和美緒さん（社3）、齊藤美結さん（政策3）、荒関麻友さん（政策2）、長谷川千佳さん（商2）、吉本直人さん（商4）

関西大学通信 “KANDAI STYLE”
発行日：2014年7月1日（年9回発行）
発行：関関大学広報委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話：06-6368-1121（大代表）